



## 警告のニュースレター「角笛」

発行日:2015年6月発行(第62号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### 【目次】

◎巻頭メッセージ:「主は盗人のように来る」 エレミヤ

◎証:「数多くの信仰書」 DAIKI

◎お知らせコーナー:「新刊本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

### [巻頭メッセージ]

#### 「主は盗人の様に来る」

by エレミヤ

今回は、「主は盗人のように来る」として、この件をメッセージしていきたいと思います。テキストは以下の箇所です。

#### 〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録16:15

16:15 見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物をつけ、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである。

このように主の再臨は、盗人のようにおこなわれることが、聖書には記されているのです。今回はこのことの意味合いを考えたいとねがっているのです。

#### <主の再臨はすべての人にとって明らかとなる>

キリストの再臨が盗人のようにおこなわれる、と聖書は語るのですが、しかし、よくよく考えるとこのことばは、なぜです。なぜなら、盗人の特徴は、だれにも知られず家に入ってきて、物を盗み、だれにも知られず逃亡することにあ

るからです。

しかし、聖書の語る主の再臨の様子はそんなひっそりとしたものではないようです。黙示録は、主の再臨の様子を以下のように書きます。

#### 〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録1:7

1:7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。

ここにはひっそりどころか、すべての目が再臨の主を見ることが語られています。全然ひっそりとしていませんし、注目度満点なのです。東京オリンピックの聖火の入場のようなものです。かつての日本でのオリンピックの日、日本中の人の目が注目する中で、聖火は国立競技場に到着し、聖火台に着火しました。日本中の人々が、みな注目してこのことをテレビでみたのです。

キリストの再臨も同じように、いや、それ以上に多くの人の目が見る中でおこなわれるのです。そして、これはだれにも知られてはいけない盗人とは、全く逆の登場のパターンです。しかし、このように注目される主の再臨が、いったい、なぜ、盗人のように来る、と言われるのでしょうか？なぜなのでしょう。

# 主は盗人のように来る エレミヤ

## <盗人のように来るとの表現>

それから、もうひとつのことがあります。なぜだか、主の再臨の日に関して、聖書はくりかえして「盗人のように来る」という同じ表現を用いて語る、ということです。しかし、人に気づかれずに来る、ということをお願いなら、ほかにも表現があります。たとえば、「ねこがねずみを獲るようにひっそりと来る」との表現はどうでしょうか？ひっそりとして、いかにも気づかれぬ良い表現と思うのですが、だめでしょうか？しかし、聖書はなぜだか、主の再臨に関して、また、主の日に関して、くりかえし、くりかえし、「盗人のように来る」ことを語るのです。以下のとおりです。

### [聖書箇所] I テサロニケ人への手紙5:2

5:2 主の日が夜中の盗人のように来るといふことは、あなたがた自身がよく承知しているからです。

### [聖書箇所] II ペテロの手紙3:10

3:10 しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。

### [聖書箇所] ヨハネの黙示録3:3

3:3 だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。

このようにして聖書はくりかえし、終末の日に関して、「盗人のように来る」と語ります。このことには何か意味合いがあるように思えるのですがどうでしょう？

## <盗人のように来るといふことばのたとえ>

そもそも聖書は神の知恵によって書かれた書であり、たとえやなぞに満ちています。以下のように書かれています。

### [聖書箇所] 詩篇78:1,2

78:1 私の民よ。私の教えを耳に入れ、私の口のこと

ばに耳を傾けよ。

78:2 私は、口を開いて、たとえ話を語り、昔からのなぞを物語ろう。

です。聖書が終末の日に関して、くりかえし、くりかえし「盗人のように来る」ことを語るのには何か意味があり、何か隠されたなぞがあるように思えるのですがどうでしょうか？

「盗人」ということばは聖書の中では、じつはみことばを盗むことに関して使われています。以下の箇所のとおりです。

### [聖書箇所] エレミヤ書23:30

23:30 それゆえ、見よ、主の御告げ。わたしは、おのおのわたしのことばを盗む預言者たちの敵となる。

このように聖書で「盗む」ということばを使うとき、それは、じつは神のことばを盗むことと関係があるのです。この理解に基づいて終末の日に関して考えるときに、みえてくるものがあります。

それは何なのでしょう？わたしにはこう思えます。それは、終末に関するみことば、特に主の再臨や主の日に関するみことばは、盗まれている、そしてみことば本来の意味合いと異なるかたちで使われるようになる、そのことを暗示、預言して「盗人」ということばが使われているように思えます。

このような視点、「みことばを盗む」という視点に基づき、あらためて終末に関する教理を見直してみましよう。このような視点で再度みると、多くの終末に関するみことばは、実際に盗まれており、変形されており、本来のみことばと異なる教理が説かれているように思えます。このことを少しみてみましよう。



キリストは、盗人のように再臨される

# 主は盗人のように来る エレミヤ

## \* 艱難前携挙説

聖書のみことばが盗まれているその最たる終末教理は、いわゆる艱難前携挙説（2段階携挙説）です。この教理によるなら、クリスチャンは終末の艱難の前に挙げられ、艱難には会わないことになっています。艱難になど会いたくないクリスチャンにとっては、何とも結構毛だらけの教えです。しかし、このような教理は、まったくみことばと矛盾しています。

このようなおかしい説、教理のため、以下の主の警告のことば、艱難の日に備えよとの警告のみことばは盗まれ、改ざんされ、意味のない警告となっています。

**〔聖書箇所〕マタイの福音書24:13**  
**24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。**

主はこのことばをもって、我々が艱難時代を経過すること、しかし、その艱難時代の中で、さいごまで反キリストを拝まず、耐え忍ぶ者は救われることを語ったのです。終末の日における大事な警告を語ったのです。しかし、今の時代の教会においては、この主の警告のことばは盗まれ、改ざんされ、意味のないものとなっています。

今の教会においては、「**最後まで耐え忍ぶものは救われます**」との主の警告は、ありもしない起こりもしない警告を語ったオオカミ少年の嘘のようにみなされているのです。たしかにみことばは盗まれています。

## \* ディスペンセーション主義

プリマス・ブラザレンのJ.N.ダービーが提唱したディスペンセーション主義は、終末に関する大事な警告のみことばを盗み、骨ぬきにするために用いられています。ディスペンセーション主義とは、時代区分とでも訳すのでしょうか。要するに時代ごとに、神の働きの主役は交代する、ということを語ります。

教会時代の主役は教会であり、異邦人クリスチャンだったが、時代が変わり、終末の時代に

なると主役は交代して、再度旧約の神の民であるユダヤ人が主役となる、と語ります。

終末の時代は、ユダヤ人の時代であると説明するのです。したがって、終末の日に関連して書かれている艱難時代も、また、反キリストの災いも獣の国の災いも、それらはみな、ユダヤ人が受けるものである、教会やクリスチャンには関係ない、と説きます。このような教えはクリスチャンにとっては、本当に結構毛だらけ、よい話のように聞こえます。しかし、よく検討すると、あちこち矛盾だらけのインチキな教理です。原野商法みたいにインチキな話で、こんな詐欺話をだれが信じるのか、と思うのですが、結構だまされている人が多いようなのです。

悲しいかな、このような盗人の教えに教会はだまされ、あらゆる終末のみことばは盗まれ、主の警告は骨ぬきにされたのです。

主はこのようなインチキの教え、終末の艱難はクリスチャンとは関係がない、との盗人の教えが流布する日を預言したかのように、かつて以下のように語られたのです。

**〔聖書箇所〕マルコの福音書13:37**  
**13:37 わたしがあなたがたに話していることは、すべての人に言っているのです。目をさまさないさい。」**

ディスペンセーション主義は、「終末の艱難は一部の人々、ユダヤ人だけが受ける」と語るのですが、主はそのインチキ教理の出現を見越したかのように、このみことばの中で、終末の警告はすべてのクリスチャンに関係するものであることを語ったのです。すなわち、「**わたしがあなたがたに話していることは、すべての人に言っているのです。**」と語りました。終末の災いはすべてのクリスチャンが関係する事柄であることを語ったのです。

ですので、同じマルコの福音書13章に記されている以下の艱難時代の事柄は、すべてのクリスチャンに関係する、と理解するのが正しいのです。

# 主は盗人のように来る エレミヤ

〔聖書箇所〕マルコの福音書13:19,20

13:19 その日は、神が天地を創造された初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような苦難の日だからです。

13:20 そして、もし主がその日数を少なくしてくださらないなら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、主は、ご自分で選んだ選びの民のために、その日数を少なくしてくださったのです。

すなわち、クリスチャンが、「いまだかつてなかったような、またこれからもないような苦難の日」を通過するからこそ、その備えをするべく、主は語られたのです。しかし、悲しいかな、これらの懇切丁寧な主の警告のことばは盗まれ、これらの警告は今のクリスチャンにとり、無関係なもの、意味のない警告となっているのです。

## \* 第三神殿の崩壊

終末の日に関連して、主の警告のことばを盗み、骨ぬきにする多くの教理が、今の時代に行きわたっています。そのおかしな教理のもうひとつの例は、終末の日エルサレムに第三神殿が建設され、その後、崩壊するとの教理です。この教理も、上記ディスペンセーション主義に端を発した主の警告のみことばを盗む教理です。

この教理も主の大事なみことばを盗み、警告を骨ぬきにするために用いられています。そのことを少し見ていきましょう。

主は、終末に関する一連の警告のことばを語るそのはじめに、神殿が崩壊する日に関して語られました。以下のとおりです。

〔聖書箇所〕マタイの福音書24:1,2

24:1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。

24:2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」

この宮の崩壊の預言はいわば、2重の預言であり、2回にわたって成就します。1度目の成就是、AD 70年の日であり、その日、エルサ

レムはローマ軍に囲まれ、エルサレムの住民は最後の一人まで殺されたのです。そして神の宮はローマにより、崩壊しました。なぜか？その理由は、彼ら旧約のユダの人々の背信のゆえであり、神のさばきが彼らの都に下ったのです。彼らは神の遣わされた初降臨のキリストを十字架に付けて殺しました。その報いとしてローマにより攻撃を受け、宮は崩壊したのです。

さて、かつての日、旧約の神の民の歴史の終わりに起きた宮の崩壊は再度、教会時代の終わり、新約の神の民の歴史の終わり、主の再臨の日再現すると理解できます。

ところで、教会時代の終わりに再度起きる、宮の崩壊ということを理解するためには、知るべき2、3のことがあると思われまます。そのひとつは、現在のエルサレムにはもう物理的な宮は存在していない、ということです。かつての宮はすでに崩壊しており、現在は柱も屋根も何ひとつ残っていない、だから再度宮を崩壊させることなどできない、という当たり前のことをまず知ってください。

たとえば、地震で倒壊してしまった電信柱、すでに倒れている電信柱を再度倒すことは無理です。すでに倒れているからです。屁理屈を言い、無理を言い、再度立て直しておもむろに倒すという方法があるかもしれませんが、しかし、その電信柱が、すでに撤去されて、もう存在していないなら、倒すのは不可能です。

エルサレムの宮もおなじ話なのです。倒れて崩壊しただけでなく、宮そのものが、現在存在していないのです。存在しない宮が崩壊するということはありえないのです。

そして、もうひとつのことを知ってください。エルサレムの宮の建設の場所です。宮はどこでも建てればよいというわけではなく、聖書の中で、はっきりと神殿建設の場所が指定されているのです。神が定めた神殿が建つべき場所、それは、アブラハムがイサクをささげたモリヤの山の上なのです。他の場所ではなく、この場所しかないのです。

# 主は盗人のように来る エレミヤ

さらに、もうひとつのことを知ってください。それは、その場所、ここしかない、と定められたモリヤの山上には、すでにイスラム教の神殿が立っており、新たに神殿を建てるスペースなどどこにもないのです。しかも、そのイスラム教の神殿は、イスラム教の三大聖地のひとつであり、多くのイスラム教徒が巡礼してきており、その場所が空いて更地になって、ソロモンの神殿が再度建つ可能性など、万にひとつもないのです。このように、終末の日に物理的な宮の崩壊が起きる可能性は非常に低いのです。そして神がこのような状況をあえてゆるしておられるように思えるのです。神の意思があるのです。

神はこのような状況、宮がそもそも存在していない、かといって、建設も不可能である状況をとおして、我々に何か語りかけておられるように思えるのです。何をでしょうか？主は物理的な宮に目を向けるべきではない、と語られているように思えます。むしろ、宮の崩壊に関するたとえの意味合いに目を向けるよう語られているように思うのですがどうでしょう？新約聖書で言われる宮とは、物理的な建物というより、神の教会を指すたとえです。以下のことばのとおりです。

## 【聖書箇所】エペソ人への手紙2:20-22

**2:20** あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。  
**2:21** この方にあつて、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、  
**2:22** このキリストにあつて、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

ここでは、宮は神の教会であること、宮の土台石は使徒や預言者であること、また、キリストが礎石であることが書かれています。ですので、主の預言された終末における宮の崩壊とは、ほかでもない、主のからだである教会崩壊の預言と理解できるのです。さらに石がひとつも残されないとは、すなわち、教会の土台となる教理の崩壊、さらに使徒や預言者の教え、さらに隅の礎石であるキリストの教えさえ、教会から取り去られるという徹底的な教会破壊の日の預言と理解できます。このような日、教会

が崩壊し、土台が崩壊する日など望ましくはないのですが、いずれ起きるのでしょう。以前からみてきましたように、このことは終末に関する他のみことばと一致しており、整合するのです。

主はこのように終末の日の宮の崩壊の日、すなわち、神の宮としての教会が崩壊する日を警告して預言を語られたのですが、悲しいかな、この警告のことばは盗まれ、何の警告にもなっていません。多くのクリスチャンは、エルサレムの第三神殿建設だの、物理的なことに目をうばわれ、主の警告に耳をかたむけようとしません。そうです、この面においても主のみことばは盗まれているのです。

さて、主はこのような日、盗人に入り込まれ、教会の大事なみことばや、教理を盗まれる日を預言したかのように、かつてこのように言われました。

## 【聖書箇所】マタイの福音書24:43

**24:43** このことは知っておきなさい。家の主人は、どろぼう(盗人)が夜の何時に来ると知っていたら、目を見張っていたでしょうし、また、おめおめと自分の家に押し入れられはしなかったでしょう。

現在このことばは成就し、神の家、教会に盗人は入り込み、大事な終末のみことばはどれもこれも盗まれてしまったように思えます。しかし、正しくみことばに立ち返り、真理に立ち戻る人に御心があることを知みましょう。



モリヤの山に建つイスラム教の神殿、及び信者

# 数多くの信仰書 DAIKI

みなさんはキリスト教書店に行かれたことはあるでしょうか？そこには聖書、また、数多くの信仰書があります。私たちクリスチャンは聖書を基準として生きています。けれども聖書を説明する「注解書」もあります。しかし、信仰書、注解書は、人の手が加わった書物です。いいえ、「人」がその本の作者なのです。もし、みなさんが、本当にイエス・キリストを信じ、従っていらっしゃる場合には、純粋な「聖書」をおすすめします。なぜかと言うと、聖書だけが神に靈感された書物だからです。そうです。聖書だけは、神ご自身が原作者なのです。今日、よほどに狂った教会でなければ、聖書が必ず用いられます。

新しく信仰者になろうとしている方々へ。本当に気をつけてください。狂った教会があります！信仰の基盤を聖書以外の書物や、人物に置いている牧師のいる教会へは行かないでください。もし、行っているのなら、そこから抜け出て、他の教会を探してください。今は大変な時代なのです。

わたし自身、信仰に迷った時、キリスト教書店へ行き、色々な信仰書を買いたった時期がありました。信仰生活の手引きをうたった本、祈りに関して書かれた本、サタンや悪霊に対処するための本、(サタンや悪霊は、人間よりもはるかに強く賢い霊的存在です。それらに対抗するために、人の書いた本なんか、役に立つとはとても思えません。)

また、天国や地獄について書かれた本、教理に関する本。中には、読む人を聖書へと導く本もありましたが、ほんのわずかです。たいいていの本は、その作者の聖書解釈に基づくものです。聖書解釈には多くのパ

ターンがあり、作者自身の主張があり、これらの本を読むことによって、信仰の迷いはより深いものとなってしまいました。

わたしは、どうも変だと思うようになり、最終的には、わずかな本を残し、聖書以外の信仰書をほとんど捨ててしまいました。今思えば、これは聖霊の導きだったと思っています。

わたしは、インターネットで、信仰について調べているうちに、「角笛」「エレミヤの部屋」というサイトにたどり着きました。そして、恐ろしい事実をここで教えられました。今の時代、アメリカを起点として、偽預言者、偽教師が跳梁跋扈ちようりょうばっこしており、それらの者たちが、聖会を開いたり、いろいろな信仰書などを書いて、多くのクリスチャンをだまし、惑わしていることです。中にはクリスチャンを装うサタニスト(悪魔崇拝者)も少なくありません。彼らの掲げる教理をまともに信じたら、それこそ滅びに行ってしまうです。



キリスト教書店で売られていた魔術の指導書ハリポッター

# 数多くの信仰書 DAIKI

彼らの教えはあまりにも巧妙であり、邪悪です。また、いかにも正しい教えに見えます。キリスト教会の牧師ですら、彼らのわなに、はまっているケースも少なくありません。日本のキリスト教会も大きく影響を受けています。

聖書には、「サタンですら、光の天使に偽装する」とありますが、まさにそのとおりです。神のあわれみによって、何とか迷いから抜け出すことができ、聖書だけが、真に信じるべき唯一なる書物なのだという事を、身をもって知ることとなりました。

また、聖書は恐れ的心をもって読むべきものです。なぜなら、書かれているみことばそのものが神ご自身であり、イエス・キリストであるからです。また、祈りをもって読むべき書物です。そうでなければ、曲解をしてしまう可能性すらあります。真に神への恐れをもって読むべきです。聖書の神は、まさにみことばなる神であり、宇宙を創造された唯一の生ける神だからです。

はっきり言って、注解書や信仰書に関しては、人間の小賢しさすら感じます。また、悪霊のおしえなどが混ざっている場合があります。注意が必要です。今の時代は、健全な教えに耐えにくく、空想話にそれていく時代でもあります。なぜか、キリスト教書店で、ハリーポッターやナルニア国物語などの本やDVD等が売られていたりします。

これから先、正しいクリスチャンにとっては大艱難の時代がやって来ます。みなさん、キリスト教書店に行く場合は気をつけてください。

終末に、クリスチャンは艱難に会わず、艱難時代が始まる前に天に携挙され、そ

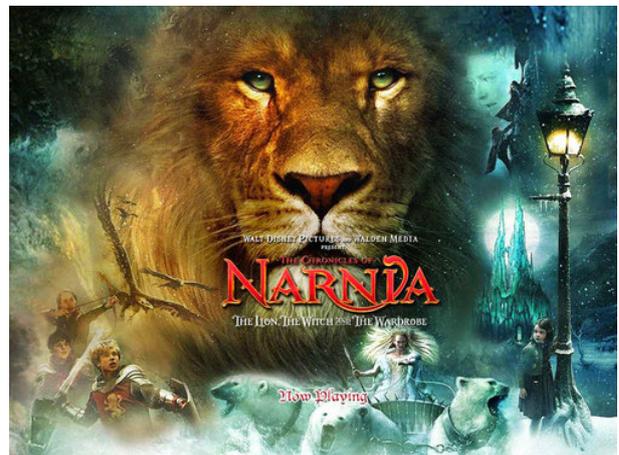
の時代が終わったら、再びこの地上に降ろされるといふ、至れり尽くせりの教えを説いている本があります。これは大変な偽りの教えです。その本の題名は「レフトビハインド」です。この物語の制作にもサタニストや統一教会がからんでいます。

そして非常に多くのクリスチャンが、この偽りの教理を受け入れてしまっています。

天国への門は、そういう意味でも狭いのです。やはり、聖書こそ、健全な教えであり、正しく読めば、天国の門をくぐれるのです。大事なことは、忍耐です。終末の日の艱難、試練は必ずきます。

どうか祈ってください。そうすれば何が正しいのか、聖霊が必ず導いておしえてくださいます。

—以上—



キリスト教書店で売られていたナルニア国物語:この本は魔術と関係する

# お知らせコーナー

## ●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255

● mail:truth216@nifty.com

## ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30

午後 14:00-16:00

場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館

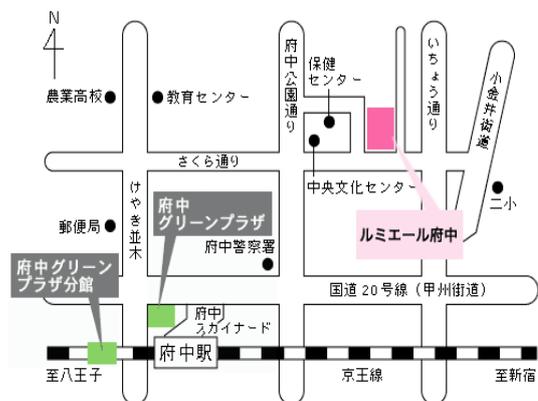
(tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、

「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。

礼拝場所のURL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)



★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>